

2021年2月24日
株式会社シーエス・ワンテン
株式会社日本ケーブルテレビジョン

2020年度CNNj番組審議会議事録

1. 開催年月日：2021年2月24日
2. 開催方法：新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催
3. 参加者 審議委員総数 8名
参加委員数 7名

(委員)

委員長 小池 生夫 (慶應義塾大学および明海大学名誉教授・言語学博士)
委員 大宅 映子 (評論家)
委員 石川 次郎 (編集者 (株)ジェイアイ社長)
委員 小西 克哉 (キャスター)
委員 国府 弘子 (ピアニスト・作編曲家)
委員 稲生 衣代 (青山学院大学教授)
委員 パトリック・ハーラン (パクン) (タレント)

(欠席委員)

委員 吉永 みち子 (ノンフィクション作家)

(衛星基幹放送事業者：(株)シーエス・ワンテン)

代表取締役社長 福田 泉
編成局長 谷 俊之

(番組供給事業者：(株)日本ケーブルテレビジョン)

代表取締役社長 川島 保男
取締役(放送事業局担当) 山本 陽一
取締役相談役 鮫島 慎司
放送事業局長 鈴木 隆泰
編成管理部長 村上 聡
総務局長 鈴木 正市
総務担当部長 城戸崎 ゆり

4. 審議番組

(1) 「特別番組:米大統領選 フロリダ州有権者の思い 日本語字幕版」(45分)

CNN Special Report: Divided We Stand: Inside America's Anger

放送日時: 2021年2月11日(木) 23時-24時

アメリカ大統領選で必ず激戦となるのが大票田の南部フロリダ州。有権者たちは、新型コロナウイルスが流行し、黒人差別問題が激化する中、共和党トランプ、民主党バイデン、どちらに一票を投じるのか。CNNのランディ・ケイ記者が、去年11月3日の投票日を前にフロリダ州各地で、高齢者や中南米からの移民、退役軍人、活動家、学生など、様々な有権者に揺れる胸の内をインタビュー。去年10月25日に初回放送し反響を呼んだ良質なドキュメンタリーを、日本語字幕版でアンコール放送

<委員意見>

- *フロリダ州という大統領選で注目の州のそれぞれの郡で、有権者の揺れる思いや、頑固なまでに変わらない思いをテンポよくまとめていて非常に興味深く見る事ができた。ただ簡潔なインタビューがスピーディに展開していくため、字幕を読むのに忙しくて話の奥深さを感じる暇がなくて、疲労感が残った。
- *日本人が如何にアメリカ人のことを今まで知らなかったのかを考えさせられた。アメリカ人は簡単に支持党を変えたりせず支持者の根は頑丈であることを、この番組を見て強く感じた。また、丁寧なインタビューを行っており、インタビューをされる側も目力があり、自分の意見や意思をしっかり持っていることに感心した。
- *トランプとCNNの確執を見ていたので、CNNが今回の特別番組をどのように放送するか興味があった。取材地域や対象者を上手く分けているが、民主党支持者が多くを占めていた。繰り返し見て、表にまとめることによってCNNの意見や意図がよく見えてきた。日本では両党の時間配分や取材対象者数の公平さや配慮が必ずあるが、CNNはここまでやるのかと、CNNそのものの報道姿勢が分かったりレポートだった。
- *英語のタイトル「Divided We Stand」はロス・ペロー氏の1992年の大統領選のスローガン「United We Stand」のもじりで、分裂したままで我々は良いのだろうかと言う意味が込められており、和訳も「フロリダ州有権者の思い」とよく考えられている。民主党から見捨てられた、民主党が変わってきたと感じる代々民主党の支持者が共和党に入党することが、現在のトランプ支持者を象徴していると感じた。反対に共和党は様々な形で黒人の投票権を阻害してきたことが印象的だった。アメリカ国民の分断が広がっていると感じた。
- *リズムとテンポ良くインタビューをしているところがCNNの好きどころ。自分の意見も大切だが、それ以上に他人の声に耳を傾けるとセッションが成功すると言われている音楽の世界だが、あらためて人の意見に耳を傾けることの大切さを考えさせられた。
- *力と深みのあるドキュメンタリーだ。とても興味深い内容だった。CNNには是非、インタビューした方々への追跡取材をしてもらいたい。現在、トランプ氏はフロリダ在住だが、トランプ氏を迎えた今のフロリダの様子を伝える特別番組を見てみたいとも思った。

- *アメリカの文化や歴史背景が分かるアメリカ人としては面白く見られたが、日本人には理解できないだろうと思う。日本向けコンテンツではないと感じた。民主党支持者が多かったが、トランプ支持者の声も聞きたかった。共和党・民主党半々の割合で取材をしてもらいたかった。CNNはメディアとしては、独自の意見が増え中立的でなくなっていると感じた。
- *アメリカ人は自分の地域のことだけを考慮して投票をする。フロリダは以前と違って移民が増えて共和党から民主党に傾いた印象をもった。CNNの早くてテンポの良い質問と編集の仕方は日本のテレビにはできないと感じた。

(2)「特別番組：新型コロナワクチン 対話集会」(45分)

A CNN Global Town Hall: Coronavirus Facts & Fears: The Vaccines

放送日時：2020年12月6日(日) 11時-12時

2020年3月、新型コロナがアメリカ国内で流行し始めると共にCNNで始まったレギュラー・プログラムが「新型コロナ問題 緊急対話集会」。司会を務めるのはアンダーソン・クーパーと、医療ニュース担当のサンジェイ・グプタ医師。専門家と市民をオンラインで結び生中継、新型コロナに関する様々な疑問に答えていく内容が好評を博した。この12月の第23回は、間もなく始まる新型コロナワクチン接種を前に、世界的な感染症の権威で、アメリカの感染症対策トップのアンソニー・ファウチ博士が出演。ワクチンの仕組みや効果をわかりやすく説明、視聴者からの質問に懇切丁寧に回答する内容

<委員意見>

- *ワクチン接種の推奨という啓蒙的な番組だと思ったが、これからワクチン接種が本格的に始まるという時期に、先を行く国の取り組みは大いに参考になり説得力を持つ内容だった。ファウチ博士が視聴者の質問に丁寧に答えるというシンプルな対話のみの番組は、日本では「視聴率が取れない」、「面白みに欠ける」などの利用で作れないだろう。なお、このような番組には医療の専門用語や正確性が求められ、同時通訳は聞きやすく、分かりやすいように出演者それぞれに同時通訳者が当たると良いと感じた。
- *タイミングよくワクチンを知ることができた。説得力のある3人の出演者だけでじっくり対話する形式がよかった。日本語が早すぎてついていけなかった。同時通訳は分かりやすくしてもらいたい。
- *名医であるファウチ博士の肉声が聞いてよかった。一般人の質問に丁寧に答えていて素晴らしいと思った。また、あれだけ著名な名医を長時間番組に出演させられていることにCNNの凄さを感じた。
- *ワクチン接種の順番が一目で分かるところがおもしろい。ファウチ博士の解説が上手で分かりやすかった。日本では多くの医療関係者がテレビで解説をしているが、ファウチ博士ほどの名医は、なかなか見当たらない。CNNでは、他にもトランプ氏がいかにコロナ対

策を怠ったかの番組も放送していて、とても面白かった。CNNの「Special Report」はレベルの高い優秀なドキュメンタリー番組だが、それ以外は“shouting match”（大声での激しい口論）的な番組が多い。CNNには真面目に政治を語る番組をもっと多く作ってほしい。

- *日本でも、このような番組を放送してほしい。閉塞感が漂うコロナ禍で、登場する夫婦の無邪気さやキャスターの明朗な感じが、何となくコロナを解決できるだろうと明るい前向きな気分させてくれる番組だった。
- *アンダーソン・クーパーとサンジェイ・グプタという2人の司会者が自分たちの持ち分を活かしながら、うまく番組を進行させていた。またゲストのファウチ博士が2人の司会者をファーストネームで呼び、信頼している様子がみられ、率直に専門的な見解を述べていた。ゲストの人選も良く、番組の構成も良く考えられていた。
- *いまやファウチ博士は大統領よりも人気のあるアメリカ人と言われている人。タウンホール・スタイルという一般人を交えてのオンラインスタイルは、お互いの距離感を縮められるアメリカのラジオでもテレビでも馴染みのスタイル。一般人の質問にCNNが答えていて、“我々のためのCNN”というイメージがうまく伝えられている。
- *日本の先をいっているアメリカの最新情報を知ることができた。3人の味が出ている落ち着いた番組でよかったと感じた。

5 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日
ローライズの手法について、引き続き検討を重ねる

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日
2021年4月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上